

今週（7月1日から7月5日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、四半期末要因で調達を控えていた参加者が再び調達にまわったものの、資金調達需要が弱い状況に変化は無く、早々にギブンされる展開が続いた。日銀当座預金残高は409兆円程度から始まり、3日の税揚げで大幅に減少したため、404兆円程度まで減少した。

無担保コールO/Nは、邦銀を中心に週を通して▲0.086～▲0.050%程度の出合い。月末要因の剥落した週初1日はビッドが復活。ビッドのネーム数は増加したものの、水準、調達量共に控えめで、レートへの影響は限定的だった。2日以降も地合いは継続し、ビッドサイドが朝一番に▲0.075%で並んだものの、早々にギブンされる展開となった。3日は税揚げにあたり不足日となったものの、特段影響は見られずレートは横ばいであった。3日間積みにあたる5日は、調達水準を引き下げる先も見受けられ、より軟調な地合いとなった。ターム物に関しては、ショートターム物を中心に▲0.07%近辺で引き合いが見られていた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは5日に2W物・15,000億円がオファーされ、2,556億円（期落ち額3,666億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.120～▲0.075%程度のレンジで推移した。週初1日のGC T/Nは▲0.095～▲0.075%程度、2日は▲0.090～▲0.075%程度、3日は▲0.090～▲0.075%程度、4日は▲0.095～▲0.075%程度と、出合いレートはほぼ横ばいで推移した。5日は投資家が資金調達にやや消極的となり、▲0.120～▲0.095%程度までレートは低下した。

SCは個別銘柄では5y137～139、10y334～354、20y166～168、30y59～62、40y10～11等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き業者の在庫の積み上がりが見られる中、全般的に動意なく閑散なマーケットとなった。

2日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.017%、全取落札利回較差+0.016%と、在庫調整の売りから弱めの結果となった。

5日に実施された3M物の入札は、9月末越えの銘柄となるということもあってか、WI取引において▲0.155%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1455%、按分落札利回▲0.1323%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.135%出合いと按分レート近辺で推移していた。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末明けの入札となり発行が増加した。鉄鋼・石油・小売・卸売業態等から大型案件が実施され、週間償還総額2,400億円程度に対して、週間発行総額は8,100億円程度と発行超のマーケットとなった。6月末日に18兆円台半ばに減少した市場残高は7月3日時点で20兆円台前半まで急回復した。また、6月末に月末残高としては過去最高となったノンバンク業態は、7月に入っても発行が続いており、連日過去最高残高を更新している。発行レートは一部の発行残高が少ない銘柄では僅かなマイナスでの出合いが見られたものの、それ以外の銘柄では0%近辺での発行が中心となった。6月末の残高を見ると、a-2格相当の銘柄の残高が増加していた。投資家の旺盛な運用ニーズを背景に、a-2格相当銘柄でも低金利での発行が可能になっており、発行枠の拡大や新規銘柄が増えているためと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/1 (月)	21,729.97	△ 0.150	108.24	△ 0.071	△ 0.082	4,090,700
7/2 (火)	21,754.27	△ 0.135	108.42	△ 0.071	△ 0.087	4,082,600
7/3 (水)	21,638.16	△ 0.160	107.60	△ 0.071	△ 0.082	4,039,400
7/4 (木)	21,702.45	△ 0.160	107.79	△ 0.072	△ 0.082	4,047,800
7/5 (金)	21,746.38	△ 0.170	107.86	△ 0.074	△ 0.113	4,042,600

来週（7月8日から7月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/8 (月)	5月の機械受注統計(内閣府 8:50) 5月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 6月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				5月の米消費者信用残高
7/9 (火)	5月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 6月のマネーストック(日銀 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 23,000億円 7/10発行	5Y 19,000億円 7/10発行	交付税借入 10,500億円 7/19借入	
7/10 (水)	6月の企業物価指数(日銀 8:50)				5月の米卸売売上高
7/11 (木)	5月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	流動性供給 6,000億円 7/12発行	エネルギー 対策借入 7,000億円 7/22借入		6月の米財政収支 6月の米消費者物価指数
7/12 (金)		TB3M 43,300億円 7/16発行			6月の米生産者物価指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/8 (月)	1,200	8,200	9,400	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 3,700 ▲ 100 700	5,800 2,600	5,300	14,700	TB3M発行▲43300償還43400
7/9 (火)	0	4,000	4,000				0	4,000	
7/10 (水)	0	▲ 30,000	▲ 30,000				0	▲ 30,000	TB6M発行▲23000償還20000 5Y発行▲19000
7/11 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	
7/12 (金)	▲ 1,000	▲ 21,000	▲ 22,000	CP買入		2,000	2,000	▲ 20,000	源泉所得税（賞与分） 労働保険 社会保障費 流動性供給▲6000
週間合計	200	▲ 36,800	▲ 36,600	—	▲ 3,100	10,400	7,300	▲ 29,300	

7/8は日銀予想、7/9以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、基本的には今週と同様に低調な地合いが予想されるものの、積み終盤かつ12日には税揚げが控えておりレート上昇の可能性もある為、ビッドサイドの動向が注目される。レポ市場は、GC O/N物は▲0.120～▲0.080%程度と、比較的幅を持って動く予想する。短国市場は、9日に6M物、12日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準を含めて市場動向が注目される。CP市場は、9日にCP等買入オペが実施予定となっているが、予定金額が2,000億円と少額であり、レート低下余地は限定的と見られる。
主要なイベントとしては、11日に6月の米国CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入